



徳山の町名由来記

黒神直久談

徳山市は昭和二十年に、二度の空襲をうけ、市街地の九〇%を焼失してしまった。そこで二十二年に、都市計画事業による戦災復興土地区画整理がはじまり、ついで二十七年に、「町名地番整理委員会（初代委員長は山下武雄老）」が発足した。そして、区画整理がおわった地区から、順次、新町名がつけられていった。

新町名は、「町名地番整理委員会」が勝手につけたものではなく、各町内会ごとに、なんども集まって、充分検討してからつけられた。

戦災復興区画整理では、あらたに整然とした広い街路をつけたり、すでにある道路は拡張したりするので、当然のことながら、旧町内は分離されたり、縮小されたりした。そこで、いくつかの旧町内が合併して、一つの新しい町ができる結果となった。

こうなると、住民は、新しい町名は自分たちの住んでいる旧町名をつけたいのが人情で、話がなかなかまとまらない。そこで、万事まるくおさめるために、第三者が平和通とか、昭和通という抽象的な新町名をつけた。

今宿のように、広い地域を分割して、いくつもの町ができた場合は、旧町名の名残をとどめておきたいという願いから、旧地名を一字使用して、新宿通、今宿通、今住町、原宿町としたところもあった。

新宿、原宿、代々木などというと、安易に東京の地名をもってきたと思っている人も多いが、決してそうではない。

しかし、佐渡町と幸町の二つの町を合併する場合、佐渡町と幸町の一字ずつあわせて「佐幸町」にすると、下になった幸町が怒り出したりして、結局、東京の銀座をもってきたという経緯もある。

また、徳山市の旧地番は、東から西にむかって、四桁までの一連の番号がつけられていたが、昭和二十七年の区画整理後の地番は、徳山駅を起点（〇番）として、放射状に整理表示された。

さらに各町内では、幹線道路（新、旧2号線）に近い方から、一丁目、二丁目と表示され、番地は二桁の番号がつけられ、わかりやすくなった。

旧町名や字が、そのまま新町名になった地区

一番町、二番町、三番町、桜馬場、辻町、花屋町、西松原、野上町、新町、笹町、橋本町、東山町、慶

万町、舞草町、遠石、横浜町、泉原、戎町

抽象名や他の有名地にあやかって付けた新町名

御影町、相生町、初音町、都町、緑町、梅園町、柳町、楠木、秋月、若草町、周陽、幸田町、五月町、柴町、川端町、清水町、平和通、昭和通、御幸通、銀座、有楽町、千代田町、晴海町、青山町、桜木町

旧町名や字にかかわりのある新町名

新宿通 今宿の宿を一字とった。

今住町 今宿の今と住吉の住をとった。

原宿町 今宿の宿の一字をとった。

代々木通 代々小路と他を合併したので。

松保町 松原町と佐保町を合併したので。

住崎町 住吉神社のあった地区と東浜崎が合併した。

岡田町 岡田原の岡田をとった。

本町 むかし、幸町、佐渡町、野上町、油屋町は、徳山のメインストリートで、通称、本町と呼ばれていた。合併に際し、油屋町はそのままという意見もあったが、いまは油屋もないので、油屋町もふくめ、本町とした。

鐘楼町 鐘楼は徳山高校の東側にあったが、住民の強い要望から、徳山高校とまわりの一部の民家をふくめて、鐘楼町とした。

月丘町 岡田原の岡（丘）をとった。

土地にかかわりのある新町名

住吉町 住吉中学校がある地区なので。

入船町 埋立地で、船が入るところなので。

沖見町 西沖原町という旧町名だったが、沖が見えるので。

権現町 熊野神社の権現さまからきている。
港町 港のある町だから。

岐山通 岐山にむかって通っている。

岐南町 岐山地区の南に位置しているところから。

児玉町 旧町名は本丁であるが、本町とまぎらわしいので、児玉神社の社名からとった。

毛利町 毛利邸に通ずる道が通っている。

築港町 築港地区だから。

銀南街 旧町内に、無量寺の大イチョウの木があったので銀杏(ぎんなん)から。

那智町 那智神社のあった地区だから。

速玉町 新宮速玉神社のあった地区だから。

若宮町 若宮さまのある地区だから。

河東町 東川の東側にあるから。

扇町 地形が扇形をしているから。

城ヶ丘 むかし、城があったという伝説から。

瀬戸見町 瀬戸内海がよく見えるから。

平原町 むかし、平原という豪族が住んでいたという伝説から。

新宮町 新宮速玉神社があった地区だから。

宮前町 遠石八幡宮の前であるから。

みなみ銀座 銀座の南だからであるが、銀南街とまぎらわしいので平仮名に。

飯島町 飯島靈尊のある地区だから。

上遠石 遠石の上手だから。

大内町 上遠石の上手に、大河内の地名があるところから。

江の宮町 大河内にあった江の宮神社が現在の場所に移されたことから。

由加町 石油化学の工場ができたことから。

周南緑地 旧海軍燃料廠の地下タンクの跡地を緑地化して、運動施設を造ったので。

徳山の旧町名

町名の区画は、「ブロック式」とか「背割式」とかいう整理表示の仕方がある。「ブロック式」というのは通路に囲まれた区画を、一つの「町」または「丁目」とし、「背割式」といっつのは通路を中心として、それにむかい合った街並を「町」または「丁目」とする方法である。

藩政時代の徳山は、通路を中心として、それにむかい合った町並が、「丁」または「町」となっており、いわゆる「背割式」が採用されていた。

さらに徳山では、家中屋敷と町家を、「丁」と「町」で区別していた。例えば、家中屋敷のあるところを、一番丁、二番丁というように、「丁」の字を使い、町家の集まったところは、佐渡町、幸町というように、「町」という字を用いた。

また、農家等、どちらでもないところは、今宿、岡田原というように、「丁」や「町」をつけずに区別していた。

現在の新町名は、市街地には旧町名と同様、「背割式」でつけられている。

遠石 横浜 浦石 橋本町 花町 幸町 佐渡町
油屋町 東浜崎 東船町 西浜崎 武田町 沖之町
野上町 江田町 西沖原 松原 江口 今宿 岡田
原 代々小路 西横町 東横町 新町 西ノ丁 八
軒丁 順庵丁 吉屋丁 土井 桜馬場 新丁 寺町
小沢丁 田町 上御弓丁 下御弓丁 細工町 西ノ
丁 本丁 鐘楼丁 勢屯 中ノ丁 一番丁 二番丁
三番丁 辻 一ノ井手 二ノ井手 栄町 北山 正
重 慶万 舞車 東松原 登登 夕顔町 間ノ町
風呂ヶ迫 泉原 河原

旧町名のいわれ

佐渡町 佐渡屋があったから。

油屋町 油屋があったから。

武田町 海軍煉炭所の初代所長の名前をつけた。

順庵丁 山下順庵という医者が住んでいた。

土井 土井屋という酒屋があった。

鐘楼丁 時刻を知らせる鐘楼があったから。